

The genus *Lecocarpus*. Svensk bot. Tidskr. 65: 246-277. — 1972. Studies in Galapagos plants XI. Embryology of *Macraea laricifolia* (Compositae). Svensk bot. Tidskr. 66: 43-47. — 1974. Studies in Galapagos plants XIV. The genus *Scalesia*. Op. bot. 36: 1-117. Harling, G. 1962. On some Compositae endemic to the Galapagos islands. Acta Bot. Berg. 20: 63-120. Pullaiah, T. 1978. Embryology of *Tithonia*. Phytomorphology. 28: 437-444. — 1981. Embryology of *Acanthospermum hispidum*. Curr. Sci. 50: 992-994.

* * * *

キク科 *Tithonia diversifolia* の花粉, 胚嚢, 胚乳, 胚の初期発生を調べた。花粉の始原組織は 5 細胞からなる。花粉母細胞の形成は双子葉型である。花粉の四分子の形成は tetrahedral と decussate tetragonal の両者が見られた。タペタム形成はアメボイド型である。花粉は大きな栄養細胞と小さな精細胞からなる。胚珠は倒生で珠皮は 1 枚, 薄層珠心である。胚嚢形成は普通型。反足細胞は 6 細胞にまでなる。胚乳形成は多核型である。胚形成は Asterad type の *Senecio* variation である。

□Foster, M.S. & D.R. Schiel: **The ecology of giant kelp forests in California: a community profile** U.S. Fish Wildl. Serv. Biological Report 85 (7.2). 152 pp. 1985. 古く Darwin (1860) により紹介されて以来広くその名を知られた世界最長の海藻オオウキモ (*Macrocystis*) は, スキューバ潜水技術が発達する 1950 年代以前は不明の点が多かった。1954 年の H. B. S. Womersley の分類の研究および 1971 年の W. J. North の編著によるオオウキモ海中林の生物学的研究が出るに至って, 漸く全貌の一端がわかるようになった。本書は特にカリフォルニア沿岸のオオウキモを中心に, これまでの研究成果をレビューしたもので, 分類・分布, 生育環境, オオウキモ海中林と生物の相互作用, 海中林生態系, 海中林の管理と環境汚染, リクリエーションの場としての海中林, 要約などの 7 章から構成される。オオウキモは海洋沿岸帯の生態系における重要な生産者であり, またアルギン酸の原藻あるいはメタン発酵による熱エネルギーの原料として広く世の注目を浴びている。巨大海藻オオウキモに興味をもつ人や海中林一般に関心をもつ人には有難い出版物である。巻末にはオオウキモおよび関係をもつ生物の生態や分布等を扱った文献 540 が収録される。Information Transfer Specialist, National Coastal Ecosystems Team, U.S. Fish and Wildlife Service, National Wetlands Research Center, 1010 Gause Boulevard, Slidell, LA 70458, U.S.A. に申込みれば本書の送付を受けることができる。

(千原光雄)